

一方、もう1人の主人公が男子日本代表8人のエース格、袖山哲朗。由美の夫でもある。この2人がゴルフによって出会い、愛を育み、結婚したことは、日本のみならず世界のデフプレーヤーにとつての希望となっている。そ

NON FICTION FILE

ノンフィクションファイル

聴覚障害の程度は音圧レベルのデシベルの0から130で表し、数字が高いほど障害度は増す。ささやき声が聴こえる0〜20を聴者というが、普通の会話が聴こえる範囲は30〜60（軽度、中度難聴）、70〜90が高度難聴。100〜130を聾者と規定されている。

袖山哲朗は、1988年、静岡県浜松市に生まれた。父は麻酔科医師の勤務医。ちなみに両親、姉とも健常者だ。

聴覚障害の程度は音圧レベルのデシベルの0から130で表し、数字が高いほど障害度は増す。ささやき声が聴こえる0〜20を聴者というが、普通の会話が聴こえる範囲は30〜60（軽度、中度難聴）、70〜90が高度難聴。100〜130を聾者と規定されている。

「1歳半でしたか。哲朗が難聴とわかったときは家内ともども、そりやショックでした。そこで私達が決心したことは聾学校ではなく、健常者と同じ学校に行かせること……。幸いなことに、補聴器をつけるとなんとかなるということでしたから。娘と同じ幼稚園、小学校に通わせました。それでわたしのサポートできることはなんでもやると、勤務医で忙殺されるなか、PTA会長もやりました。同時に、スポーツをやらせたいと、最初はわたしもやっていたソフトボールを始めました。しかし小学3年生のときに、浜松シーサイドで行われたゴルフのジュニアサ

スウェーデン、カナダ、豪州、スコットランドと回を重ね、アジアでは初の日本での開催となった。

普通の試合と違うところは、選手同士及び、海外選手と日本選手、大会を運営する健常者ボランティアと選手達のコミュニケーションをどうとるか、という基本的なことを考えねばならないことである。もちろん、そのツールの最たるものは手話であるが、国際大会の場合は、日本語と英語手話各々1人、それを通訳し言葉で発する各々1人の計4人を必要とする。国際手話ができる者が現在、日本には12人いるそうだが、そのうち4人が国際会議ではなく、ゴルフの試合のために集まったのは、稀有なことだという。本大会のコミュニケーション部門を4年前から準備し、プロデュースしたのが、自らも国際手話をマスターしている、今回の物語の主人公、袖山（谷口）由美であった。

今年初めて日本を舞台に開催された世界デフゴルフ選手権。聾者のゴルフの世界大会である。ここに選手として出場した、若きデフの星、袖山哲朗と、運営側にいた国際手話の資格も持つ才女、袖山由美。2人は昨年夫婦になったばかり。2人の出会いから夫婦として歩み出すまで、いつもゴルフがあった。

文・写真／古川正則（ゴルフダイジェスト社編集委員） 協力・手話／瀧澤亜紀



音のない世界で、
ゴルフが取り持った
ふたりの縁
袖山哲朗・由美

ゴルフと、手話と、恋と。

今年10月初旬、三重県・津CCにおいて世界デフゴルフ選手権が行われた。デフとは聾者のことで、世界13カ国から、各国代表——男女、シニア部門で個人・団体戦を戦う——が、役員を含めて100人以上参集した。

同大会は2000年に始まり、イングランドを皮切りに2年に1度、米国、南ア、アイルランド、

「子どもの頃から真つすぐでブレない性格でした。中途半端が嫌い、

この略歴から見えてくるのは、コスモポリタンであり、小柄な体ながら何事も挑戦してやろうとするフアイトのかたまりみたいな姿である。

イナード、現在は東大で手話講座を開講している(国際手話のさきがけである)。

由美は父のあとを追うように、

筑波大付属聾学校高等部を卒業したあとも、中央工学校建築部に入り、大手ゼネコンに就職。しかし、96年米国留学のため退社。00年ギョロレド大学(スペイン語専攻)、02年サンフランシスコ州立大学聾教育科卒業。その後、アメリカの2つの州にて教鞭をとっている。

NON FICTION FILE

デフゴルフで
出会った2人。
「ゴルフ」と「手話」
それぞれを教え合いながら
気持ち近づいてく。

15歳差を乗り越え結婚

由美は会う前から哲朗のことを知っていた。若きデフの星で、障害を持ついても健常者に伍して何事でもできるのだという姿勢に共感していたのである。

口をきくきっかけは聴導犬。ベツトが大好きな哲朗は自宅でも犬を飼っていた。話が弾むまでにその時間はかからなかった。し

それに後悔という言葉を何より嫌悪していました。父親に似たのでしようね」と、母・美智子は述懐する。由美に好きな言葉、嫌いな言葉を聞くと、前者は「I can do!」、後者は「もし〜なら」と後悔することだった。

03年帰国し、外資系の化学会社に勤めはじめた由美は米国留学時代はじめていた国際手話、聴導犬の普及へと活動の輪を広げていく。これを日本デフ協会は見逃すはずもなく、国際大会のコミュニケーション部門でのプロデュースを依頼するのである。

かし当初は、恋愛感情にはほど遠かったと思われる。出会ったとき、哲朗大学2年生、由美35歳。実に15歳という年齢の差は、特に由美にとっては逡巡があるのが自然であらう。

触媒となったのは、哲朗の父・修であった。ちよ

うどそのとき、哲朗の住むアパートの契約が切れたのを機に、谷口家へ息子を下宿させてほしいと申し出たのだ。

「今だからいいですが、妻は反対しました。でもわたしは押し切りました。ええ、下心はありましたが、由美さんみたいな知的でしっかり人生設計を持つ人なら、親がいうのはなんです、が、坊ちゃん育ちで頼りない哲朗にはうって

「I can do!」(由美)



「世界一になりたい」(哲朗)

引き合って求心力を生むのではないのでしょうか」とは、世界デフ代表選手の1人を日頃からレッスンしている小誌「雑巾王子」こと武市悦宏。

哲朗はそれらの感覚が優れているのだらう。ドライバーショットでの飛距離は270ヤードを越え、高校では全国大会に出場したし、大

学3年のときにはJGA(日本ゴルフ協会)アカデミックゴルフファワードで優秀選手賞を受賞している(そのときの高校最優秀賞は松山英樹)。

この受賞の対象となったのが、世界デフでの哲朗の活躍だった。

小学5年のときに哲朗のことが新聞に載り、日本デフゴルフ協会(当時は連盟)からデフゴルフへの誘いを受けたのだ。

父・修は積極的に出場をすすめた。哲朗は普通の学校に通ったため、聾者の「必携」である手話ができない。補聴器から聴こえる声と読唇で会話する。対して日本デフ協会員は後天的障害者以外は、ほぼ100%聾学校出身。

修は哲朗に対して、手話をマスターさせることができなかった後ろめたさがあつたのだらう。それに哲朗はサイドでいえば、いわば健常者の側。デフの世界との橋渡しになつてほしいと父は望みもしたのだ。日本デフ

協会のほうもフレッシュな若者ゴルファーを心待ちにしていた。ある程度の収入がなければ、ゴルフに近づけないのはこの世界でも同じ。いきおい中年になつてからということになる。若い世代を取りこみたいのは日本デフ協会も同じなのだ。哲朗がその象徴になつてくれればいいと考えた。父、日本デフ協会両者ともに渡りに船であった。

話は前後するが、哲朗は父の意思とは関係なく、子ども心に「日本一になつてやる」と決心していた。その思いは中学3年生のとき、日本デフゴルフ選手権優勝で実現する。日本デフ協会の意図したように、デフの星の誕生でもあつた。哲朗は、次は世界一への夢のため、出場制限がとける19歳(高校3年)のとき、ついに世界デフ選手権(カナダ)への出場を果たす。そして初出場4位に入賞。その2年後、豪州大会では3位と目標に一歩近づいた。次のスコットランド・セントアンドリュースでは8位。

ここで日本デフ選手権のことを少し説明しておこう。まずは隻腕プロゴルファー山手勝が津CCに呼びかけ、1995年、初の

全国的な障害者ゴルフ大会「ザ・チャレンジドゴルフトーナメント」が開催されたのがきっかけだった。上肢、下肢、ブライインドなど障害の種類ごとに各部門で順位を争ったのだが、デフゴルフもその一部門として行われた。そして1997年、NPO法人日本デフゴルフ協会設立と同時に日本デフゴルフ選手権として、独立したわけだ。

さらに日本デフ協会は世界大会の開催を目論む。そして4年前、豪州パースで行われた世界大会で、日本開催に候補する。そしてそれが認められたのを機に、津CCにおいて、さまざまな分野で準備が行われ始めた。

同大会には350人をこえるボランティアが活動したが、そのなかの1人が谷口由美だった。ここに哲朗、由美の邂逅が実現することになる。

*

谷口由美は1973年、東京成城学園に生まれた。父・忠は聾者だが、母・美智子は難聴。美智子はほとんど普通にしゃべることができる。由美自身は先天的聾者。ただ由美の兄は健常者で既婚。父・忠は大手ゼネコンの建築設計デザ

つけどと思いましたが。それに手話もマスターできるでしょうしね」と、修は笑う。

谷口家へ下宿するようになった哲朗は、由美と約束をした。ゴルフを教えるから手話を教えてほしいというギブ・アンド・テイク。

由美は、「全国大会400歳で銀メダルをとったのだからわたしはアスリート志向、だからゴルフも絶対うまくなる」と、自分を鼓舞したという。モチベーションをみずから高める彼女の発想法である。由美は哲朗の助言とおりクラブをそろえ、基本のグリップから教わった。哲朗のスウィングづくりの基本はクォーターショットを繰り返し練習することだ。由美もこれを実行した。

「ぼくらは一生、ゴルフをやるのだから夫婦でレベルの高いゴルフをやるほうが愉しめるじゃないですか」とは哲朗の意見。ドライバーは持たせず、9番アイアンでスウィングを固めさせた。夜中、公園で地面にラインを引き、ヘッドの入りが安定するように素振りさせたことも再三ある。

由美の初ラウンドのスコアは190だった。それを2年かけて100を切るまでに成長させた。何よりスウィングが一変した。

これからの目標について、由美は「シングル」、哲朗は「誰も真似できないプレーヤー」という。哲朗のパッティングスタイルは、その目標のひとつの象徴である。そのときのフィリンドグで



写真/渡辺秋男

NON FICTION FILE

左打ち、右打ちと打ち分ける。そのためバタは両面で打てるようキャッチインを使用している。では哲朗の手話の上達はどうだったか？ 2人は口を濁して苦笑するばかりだった。

こうして2人はいつしか恋愛感情を持つようになった。以来、津CCでの大会ではいつも一緒に姿

が見られるようになる。そして昨年3月10日、哲朗の大学卒業を祝って両家族で宴席を持った。もうすでに2人は結婚の意思を固めていることを両家族も知っていたからだ。翌11日には入籍届けを出した。しかし、その2時間後に東日本大震災が起きる。2人にとって永遠に忘れられない日となった。

さて、ここで冒頭の日本での世界大会に戻る。大会は本戦4日間を含め、6日間の長丁場。由美は3日目に過労で倒れたものの、持ち前の頑張りで、大役を終えた。哲朗には父・修がキャディでついて、初日、緊張のためか90を叩いてしまい、個人としてはこれまで最低の11位で終わってしまった。ただし、日本選手では最高位。日本選手たちの結果に関しては、シニア団体部門では優勝、女子団体でも3位の栄誉を手にした。天候にも恵まれたせいもあるが大会は成功裏に終わった。

しかし、由美は少々不満げであった。個人優勝は豪州の16歳の若者。他の国も世代交代が進んでいるのに、日本だけは相変わらず若手は哲朗1人。それは哲朗自身

も感じている。それにはもともと自分が活躍し、アピールして若い世代を振り向かせたいと思うのだ。

本戦に先立つ前夜祭では、2人にとって嬉しいハプニングもあった。入籍はしたものの、本大会の準備に追われて式は挙げていなかった2人のために、世界デフ協会会長が立ち会いの神父役を買って出て、誓いの儀式を行ってくれたのだ。ベールは新郎の母親が用意し、父の修が持参した。

これから作っていく家庭への信条を尋ねると、哲朗は「ありがたい、の気持ちを持って接する」、由美は「笑う門には福来る家庭にしたい」と答えてくれた。

「哲朗が高校、大学、また現在の就職先（スポーツ用具・外資。同大会でもウェアの提供などサポート）に入れたのも、由美さんと結婚できたのも、そしてわたしが哲朗について世界大会に行けるのも全部ゴルフのおかげ。2年後、米国ミシガン州での大会へは2家族で行けるかもしれませんね」（修）

なにやら父の目論見どおりにコトが進んでいるようだが、2人にとっては、まさにゴルフが取り結んだ「縁」と「恋」であったことは間違いないだろう。（敬称略）

御免！ ゴルフギア探検隊



キャプテン☆ 児山和弘
絵・川端英樹

今回のゴルフギア探検隊は、ブリヂストンの「X-01」「X-01z」ボール。10月19日に発売されたばかりの新しいプロ・上級者向けボールだ。ツアーでは既に先行して投入され、池田勇太がキヤノンオープンで優勝するなど結果も上々。すでに多くのプロがシーズン途中ながらスイッチしている。よく知られているように、ボールの

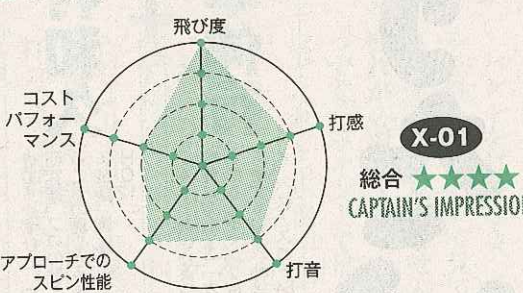
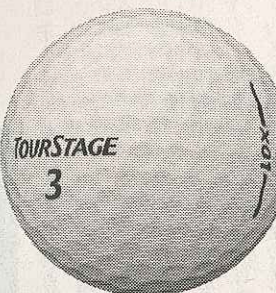
硬いほうがスピンはよりかかる。今回の2種類のボールに関していえば、「X-01」は軟らかいカバーと軟らかいコアの組み合わせ。「X-01z」は軟らかいカバーと硬いコアの組み合わせ。そのためバックスピン性能は、「X-01z」のほうが優れているといえる。弾道解析器「FORESTIGHT GC2」を使用したテストでも「X-01z」のスピン性能は、海外ブランドを含むあらゆるメーカーのなか

でもトップクラス。「X-01」のスピン性能もよく、両モデルともSWのフルショットで高スピンの目安となる10000回転/分を超えていて、メーカー開発者の気合を感じさせる。現代のボールの構造は複雑だ。3ピース、4ピースといった多重構造が当たり前になり、相反する性能を両立している。「X-01」と「X-01z」も同様で、対象となるゴルフアームも近く性能も似ている部分が多いが、どちら

GEAR MANIAC'S SHOPPING

ブリヂストンスポーツ「X-01」「X-01z」ボール

販売価格 ●
オープン価格
(市場想定価格)
1ダース 6,300円程度)



もプロの使用に耐えうる飛距離とコントロール性能を持ったボールだ。さらに突きつめれば、フルショットでの飛距離や軟らかい打感を求めるなら「X-01」。アプローチのスピン性能、ロング&ミドルアイアンの弾道の高さを求めるなら「X-01z」といえる。プロの使用を見てみると、「X-

01」はスピン量が多くなりがちなフェードを持ち球にした選手が多く、「X-01z」はスピン量が少なめのドローヒッターや非力な選手が使用する傾向がある。プロは自身の技術の傾向にあわせて、よりシビアにボールを選んでいる。我々アマチュアにも大いに参考になるところだ。

飛距離の01スピンの01z

※ヘッドスピード42m/s (ドライバー換算) での平均値
(使用クラブ: アナライズ MSウェッジ 56度)

	バックスピン/分	飛距離	打ち出し角	最大到達点(球の高さ)
X-01	10090回転	73ヤード	35.2度	20.8メートル
X-01z	10335回転	73ヤード	35.5度	21メートル

こやまかずひろ ゴルフ道具研究家。数々の中古ショップの立ち上げに参加、ゴルフグッズ製作にも携わる。オモテもウラも知る、ギア&グッズどっぶりのゴルフボーイ。74年広島生まれ